

人権コラム 心、豊かに

◆ 許すことの「美学」

日常生活の中で、ミスや非礼は誰にでも起こりうるものです。ときにはそのミスや非礼が他人に迷惑をかけ、また不快な思いをさせてしまうこともあります。

そのようなときの修復的な役割を果たすのが「謝罪」で、謝罪とは「自らの非を認め相手に許しを請う」ことをいいます。一般的に、謝罪は口頭あるいは文書などでその意思が表現されます。謝罪の気もちが相手に伝わらず、事態や人間関係をさらに悪化させてしまうこともあり、謝罪が社会の形成に与える影響は決して小さくありません。

謝罪は謝る側、謝られる側、または双方の再出発のための行為であり、謝罪によって物事（問題）が解決するものではないとされています。「謝ればそれで終わり」ではなく、スキルアップをはかる機会と捉え、謝罪に至った要因の探求や日常の心構えを反省し、今後に生かすことが大切です。

謝罪には謝る側の自発的な行動が求められます。その行動に一定の誠意が加わって、謝罪としての体をなすものですが、昨今では謝罪の強要が散見され、その様子をネットに流すなどの非人道的行為が問題視されています。これには多くの人が強い不快感を示しており、批判的な意見が大半を占めています。

謝罪には、「今後にむけたチャンスを」という願いも込められています。謝る側の人権を尊重し、その願いを受け止める寛容性を養い、「許すこと」によって社会の流れを円滑に導く行動が望まれます。

あちこちで謝罪が繰り返され、そのことが話題になる社会を望む人はいないはずですが、「ごめんなさい」には「これからよろしく」と応じられる心を追求していくことも美学ではないでしょうか